

特集 永久歯の数が足りない子供が増えています。

1. データでは先天性欠如歯が増加

生まれながら、何らかの原因により28本の永久歯のうち、数本の歯が足りない(先天性欠如歯という)人がいます。このような「永久歯天的欠如」の子どもが、10人に1人いることが2010年11月、日本小児歯科学会の調査で分かりました。

先天性欠如歯は、かかりつけの歯科医や学校健診で指摘されるまで本人や保護者も気がつかないことが多いようです。先天性欠如歯の有無は、生え変わる時期が過ぎても乳歯が残っていることがひとつの目安になります。天的欠如歯の疑いがある場合には、歯科医院でレントゲン撮影による確認をお勧めします。



2. 先天性欠如歯の原因は

先天性欠如歯の原因は、家系の遺伝以外に永久歯の歯胚(出来始めの歯)の発育を妨げるような感染、薬剤、栄養障害、外傷などの環境的な要因が影響していると言われています。人類学者の藤田は、永久歯数の減少は進化現象によるもので、顔は咀嚼器官の退化によって相対的に小さくなりつつある。これに同調して、歯は小さくなり歯数の減少につながっていると述べています。人類の進化は、単純化、小型化、欠如へと進んでいるようです。

先天性欠如の前兆として幼児の乳前歯に癒合歯(2歯がくっついて1歯に)がある場合、その下に生えてくる永久歯が欠如する率は約40%という報告があります。

＜先天性欠如歯の目安は＞

- 1) 乳前歯に癒合歯がある
 - 2) 奥歯の乳臼歯がいつまでも残っている
 - 3) 両親のどちらかに先天性欠如歯がある
- これらの場合には、先天性欠如歯の確率が高くなります。

3. 欠如が出現する場所は

欠如が出現する場所は、顔の中央から2番目に生え

る側切歯(前歯)と、5番目に生える第2小臼歯(奥歯)で多く認められます。7歳時でエックス線写真上において永久歯の歯胚が乳歯の根の下に確認されないと、約9割の確率で永久歯が欠如するとされています。



4. 歯並びへの影響と矯正治療は

永久歯が欠如していると、空隙歯列(すきっ歯)になったり、欠如している場所に隣の歯が倒れ込んで、本来咬み合う上(または下)の歯が延びてきたり、咬み合わせが悪くなる可能性も高くなります。そのため咬み合わせを治す矯正治療や、ブリッジやインプラントなどの人工の歯で欠如部分を補う治療が必要になります。

矯正治療により歯を移動させて、スペースの閉鎖が可能であれば、歯の寿命を延ばし人工物を入れないという理想的な方法と考えられます。

＜治療法としては＞

- 1) 矯正治療で欠如部のスペースを閉じる
- 2) 矯正治療で倒れている歯を起こして欠如部のスペースを作り、治療を行なう

※平成24年4月から6歳以上の天的欠如歯を有する患者さんの矯正治療に保険適用が認められました。(指定医療機関において)



11歳6カ月、女子。上下の小臼歯先天性欠如歯があります。



矯正治療により、倒れている歯を起こしてスペースを作りました。矯正治療後、スペースを蓋歯で保持し、大学生になり先天性欠如部に人工の歯を入れました。

<乳歯を活かせる場合もある>

本来永久歯は、乳歯が脱落したその下から生えてきます。しかしその永久歯が欠損していると、乳歯は脱落せず本人も乳歯とは気づかずに成人します。そして

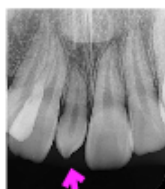
30代、場合によっては40代、ごく稀に50代以上まで残ることもあります。このような場合には、日々のブラッシングなどの予防対策が重要になります。

上の前歯の間に、余分な歯が生える

1. 余分な歯は過剰歯

乳歯から永久歯に生え変わり、上の前歯の間に1本余分な歯が生えてくるのが稀にあります。この余分な歯を、正中過剰歯(せいちゅうかじょうし)と言います。過剰歯は、上の前歯の間に出現しやすく、大きさは小さくつぼみ状の形をしています。過剰歯が顎の骨のなかに埋まっている場合には、上の前歯が約5mm以上開く症状(正中離開という)があります。しかし、正中離開は、上の中切歯の隣の側切歯(2番目の歯)が先天性欠如している場合にも起こることがあります。

“過剰歯が骨の中に埋まっているか”“2番目の前歯が欠如しているか”は、歯科医院でレントゲンを撮影して確認する必要があります。



過剰歯

2. その原因と矯正治療は

過剰歯の原因は、母親のお腹の中で正常な歯以外に1~2本多く歯胚ができ、先天性の病気などが影響すると言われています。過剰歯が、前歯の間に生えている場合には抜歯が必要です。なぜなら、早期の抜歯により隣の歯が移動して正中離開が自然に閉鎖する可能性があるからです。

過剰歯が顎の骨の中に埋伏している場合、抜歯は困難になるため、局所麻酔注射や抜歯手術に耐えられる年齢まで経過をみる必要があります。

抜歯後、上の前歯の間に大きなスペースが残っている場合には、矯正治療が必要になります。



13歳女子。上の前歯の間に過剰歯があります。



過剰歯を抜歯して矯正治療中

11回目の市民セミナー開催される

私たち矯正歯科医会神奈川支部会員は、正しい矯正歯科治療を市民の皆様に知っていただくために市民セミナーを開催しております。この市民セミナーは歯並びの日(8月8日)を記念して、矯正歯科治療の正しい知識の啓発・普及活動の一環として、矯正歯科医会主催で2004年より毎年全国各地で開催されております。私たち神奈川支部で

も、2004年より毎年市民セミナーを開催して、多くの市民の方々に、正しい矯正歯科治療の知識を啓発できてきたことと自負しております。

今年度は、2014年7月31日(木)、「歯並びと健康-見て、子どもたちの未来のために-」をテーマに、「市民セミナー in かまくら」が、鎌倉芸術館にて開催されました。当日は午後1時から4部制とし、384名の参加を頂き、例年同様、盛況なセミナーとなりました。

開催内容といたしましては、参加者に1. 講演「矯正歯科治療、いつ?どこで?」、2. 矯正歯科治療症例展示コーナー、3. 矯正歯科個別相談コーナーといった3つのプログラムを回っていただき、矯正歯科治療について知って頂きました。

今後も矯正歯科医会神奈川支部会員が力を合わせ、市民の皆様正しい矯正歯科治療の知識を普及できるよう尽くしたいと思います。



矯正歯科治療症例展示コーナー



矯正歯科個別相談コーナー

発行 日本臨床矯正歯科医会・神奈川支部 / 編集 広報担当 石川 剛 TEL 044-200-8374 / 三田浩明 井坂文隆

<医院ニュース>